

音楽の支援

「音が苦(おんがく)にしない授業」

音楽は、①目と手の協応動作に苦手感がある、②指をスムーズに動かすことが苦手、③聴覚過敏がある、といった特徴のある発達障がいを持つ子にとっては、大変つらい、苦しい授業になりやすいのです。音楽室に行きたがらない子の背景には、このような要因も大いに考えられます。そこで、音楽の授業での「構造化」について考えてみたいと思います。

音楽室の構造化

下の写真は、音楽室全体の様子です。

音楽室の様子



椅子の足にテニスボール



75
サツとツール

テニスボール

椅子を引きずる音刺激を削減するために、テニスボールを椅子の脚につけていきます(右の写真)。テニスボールに穴を開ける作業がけっこう大変なので、ぜひ校内の先生方の手を借りましょう。

注1 ただし、椅子によっては、テニスボールを取り付けることができないものもあります。

注2 テニスボール内に微量に含まれる化学物質への過敏症が心配される場合は、次のHPをご参照ください。

201. 座席を確認できるシートです

自分の席を色と番号で確認できるように、前頁下段の写真に大きな矢印で示したように、椅子の下の床に列ごとに色分けした番号のシールが貼ってあります。色画用紙に番号を書いて、その上から「Bコート」という透明シールを貼っています。

音楽室では、大きな楽器を使うこともあるので、音楽室を広く使用するために椅子を移動できるようにしてあります。椅子を元の位置に戻すときにも、この番号は目印になります。

番号が剥がれかけていたら、すぐに新しいものに取り替えることができるよう、番号が書かれていない予備のシールを常に数枚用意しておくといいいでしょう。

76 サツとツール

音楽室版「声のポリューム」

「サツとツール23」でご紹介した「声のポリューム」(34頁参照)の音楽室版

が、「音楽室 声のものさし」です。

音楽室版の特徴は、例えば校内音楽会など合唱の発表が近い場合は、「4(体育館に響き渡る声)をめぐして歌おう!」などと子どもたちに声かけできる点です。ただ「大きな声で!」と声をかけるよりも、より具体的に示してあげられるわけですね。

また、新しい曲に取り組むときに、CDなどで範唱を聞くことがあります。その曲を知っている子どもは、どうしてもCDに合わせて大きな声で歌ってしま

♪音楽室 声のものさし



ます。しかし、その歌声がその曲をまだ知らない子どもが聞く妨げになってしまふこともあるので、「この曲を知っていても、今は1(自分だけに聞こえる声)または2(隣の友達に聞こえる声)の声で歌ってね」と声をかけます。

202. 見通しを持たせる掲示

見通しを持たせる掲示

子どもたちに少しでも見通しを持って授業に取り組んでもらえたらと考え、次頁右上の写真のように、その時間の授業のおおよその内容を黒板に提示しています(これは小学校3年生の授業内容です)。同じ学年でもクラスによって進度が違ふ場合もあるので、休み時間の間に貼り替えます。

掲示用の用紙コーナーには、学年ごとに色分けしたかごに、用紙が入れられています。左のかごから3年、4年、5年、6年となっています。いちばん右のかごの中には、各学年共通に使用する用紙などが入っています。例えば、「合奏の練習をします」「曲の感じをつかもう」などです。